

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14-5		
自己評価作成日	平成28年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成28年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣人愛の理念に基づき地域密着の介護施設として地域の皆様に支えられて6年目になりました。10月末には関市のグループホームの運動会にお誘いいただき小規模多機能施設からも応援に参加し大学生高校生の皆さんと中部学院大の学生さんにお手伝いしてもらって玉入れリレー等や応援など盛り上がりました。また今年は地域民生委員さんが絵手紙ボランティアに来て下さり、それぞれ家族様に暑中見舞いを出しました。又、地域文化祭には利用者の皆様と体験学習で来た中学生さんで作った帯の敷物や壁掛け、絵手紙等出品しました。目の不自由な方が来年100歳ということでその利用者様が編まれたマフラーも出品し後日見学に参加され手で触れてもらい、帰りにはおやつアツアツでスーパーフードコーナーにて鯛焼きやたこ焼きなど食べました。11月は「恵み認知症カフェ」を開催して地域の皆様や中学生また利用者様との地域交流を予定しています。今後とも地域に根差す介護施設として努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと隣接の小規模多機能型事業所との共催によって開催された「恵みカフェ」を見学した。地域の有力者や民生委員・児童委員、地域包括支援センター職員、地域の大学の関係者、ボランティアグループの有志、そして土曜日の開催とあってか、小学生や中学生の姿も目に付いた。当日は止むことのない雨によって客足が心配されたが、開始時には会場のホール(小規模多機能事業所のリビング)に入れない来訪客が出るほどの盛況ぶり、通路での立ち見客を加えると100名近くが来場した。カラオケ大会や中学生による肩たたきボランティアのイベントが行われ、ホームの畑で採れたさつま芋を使った手作りの美味しい料理が振る舞われた。ホーム職員の半数以上が外国籍の職員であるが、国籍や言語、信教の違いを乗り越えて「隣人愛」で結ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私共の仕事の礎は「隣人愛」であることを忘れないで隣人に仕えること、そのあるべき位置から外れないように申し合わせている。	直接的な関係者(代表者、管理者、職員等)だけでなく、何らかの係わりを持った人たちが、「隣人愛」でつながってホームを支えている。調査日当日に「恵みカフェ」が開催されたが、100名近い参加者があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	寝たきりの方が多く、中々お連れすることができない中音楽ボランティアの方が訪室して演奏したりその方の好きな歌を歌ったりハーモニカの演奏をしてくださったりしている。	「恵みカフェ」に、地域から様々な人たちが集まった。地域の有力者、地域包括支援センターの職員、地域の大学の関係者、民生委員・児童委員、小・中学生、ボランティアグループ等々である。輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移動できる方に限られるが月に1回は外食やおやつツアーにお連れしている。手作りの編み物など地域文化祭に展示させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は特に運営推進委員のかたが毎月ボランティアで絵手紙を指導して下さっている。利用者様全員とまでいなくてもお家に暑中見舞いを出したり地域の文化祭に出品している。	家族、行政、包括、自治会長、学識経験者の他に、地域企業として社有車の関係で営業担当者が参加している。7月に神奈川県で起きた事件を踏まえ、防犯対策についても話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にはいつも行政や包括から出席を得て身近な話の中から特に災害や事件の事や防災訓練のこと等施設の目指すことなどで意見をいただいている。	毎回運営推進会議には、行政枠として市役所と地域包括支援センターから担当者の出席がある。「やまゆり園」事件に関しても、運営推進会議の場で市としての考え方を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を第一として家族の理解と市役所指導の下記録を残している。早朝夜間職員が一人対応の時は施錠している。	管理者、職員は身体拘束のない支援の重要性を理解し、言葉遣いにも気を配っている。玄関の施錠は特別の場合を除き夜間のみとしており、昼間は見守り支援を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は全く理念に反することであり、何が虐待になるのか、日常のミーティングの中で具体的に無視することでも虐待になるのだと申し合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後認知症を患う人が増えていき事業所からキャラバンメイト2名活動して認知症に対する生活の知識を職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明と了解は元より救急時の対応や希望の病院を伺い不安や疑問点には当施設ができる事できない事を説明して了解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは面会時やメールで利用者様の様子を伝えたり要望を伺っているしこちらの提案も聞いて下さっている。ご要望にはできない事できる事をはっきり伝えて了解を得ている。	運営推進会議に出席される家族には発言を促し、家族の立場だけでなく、利用者の代弁者として発言してもらっている。「訪問時に事務所に誰もいない」という家族の意見から、呼び鈴が全館に聞こえるよう改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は医療職ということもあり常に現場に入り困難な場合は一緒に考えている。半分は外国籍職員で文化も常識も違うので6年目になるが良くわかってきている職員もいる。	月に1回、職員会議がある。職員の意見や提案は、会議の場だけでなく、いつでも言いやすい状況にある。外国籍の職員に伝わりにくいことや緊急な連絡は、LINEやメールを活用して確実に伝えている。	職員間でのメールやLINEのやり取りは、個人情報漏洩やトラブルにつながる危険性がある。利用者の個人情報だけでなく、職員の個人情報の取り扱いを含め、ルール化を願う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則り人員配置は手厚くしている。有給、産休、育休をとる機会を与えている。各職員の考え方や常識があるがなるべく公平になるよう常に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画で全員が研修を受けている。現場において工夫がなされているところもある。特にコミュニケーションでは笑顔で利用者様の状態に合わせているのをよく見かける。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型の集まりに参加させていただいてケアプランを持ち寄って他事業所のやり方等を学ばせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談はなるべくリラックスできるような雰囲気 に配慮するとともに不安な気持ちに寄り添って 湧きおこる質問を想定しながら結論から 話し始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	認知症進行で本人も家族も不安な中にあり、 経済的な事やわからないことにお応えして いる。普段から面会時など気安く話ができ るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	どんな情報もストックしておき、本当のニー ズや背後の事情を推し量りながら小さな情 報も大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだり、わかる方には 名前ごとに分けてもらっている。また認知症 が進んだ方で転倒の危険がある方など立た れるときは職員におしえてくださる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員は家族の代わりができない事や家族の 温もりを必要とされていることを話してでき 限りの面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元々通っておられた教会の方たちが尋ねて 下さり、ご本人も楽しみにしておられる。	併設の小規模多機能事業所と合同で認知症 カフェを開き、地域、家族、ボランティア、小・ 中学生等が来て楽しい時間を過ごしていた。 認知症カフェが、馴染みの人が集まる場と なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	認知症が進み、自分が頼りなくなられ、「さ みしいおかあちゃん」と呼んでおられるかた にお元気な利用者さんが事あるごとに話し かけておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なくなられたことにより利用が中止になっても嫁様が季節の花や果物、野菜など「おばあちゃんの命日」と言って届けて下さり、施設としては励まされる思いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームの運動会に参加できなくてもお世話される学生さんが練習に来られ、職員も利用者様が寝たきりにならないよう玉入れなどされ、笑顔になられる機会を大切にしている。	「静かに安心して暮らしたいであろう」と、利用者の気持ちを察して、気分が不安定な時や落ち着かない時は、温かいお茶を出したり、「大丈夫、大丈夫」と静かに声をかけ、気持ちを和らげるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の笑顔になられる瞬間を職員間で観察して情報を共有したり、観察を細かくしていけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の方々の集まりであるから各人の関わりに問題が出てくるので職員が調整役になり、その工夫を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	94歳になるクリスチャン女性が認知症が進んで自分の事周りの事、場所、時がわからなくなってきている。そこでの共通語は子供讃美歌であることが分かり、1日に1回は職員と歌うプランにした。現在は前より落ち着いている。	日々の係わりの些細なことから利用者の思いや意向を汲み取り、それを介護計画に取り上げている。左記の自己評価の事例の他にも、「教会へ行きたい」や「のど自慢に出たい」が、介護計画に取り上げられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員も少しずつ覚えの早い人は字らずらでわかるようだ。書くのは苦手だが少しずつ記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症症状の異食盗食でボタンをとったりファスナー部分を噛み切ったりで職員間で修理したり安全を守る為に口に入れるものを考えたり皆さんでアイデアを出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生さんの絵手紙ボランティアにより職員が共同で暑中見舞いを出したり、地域の文化祭に出品させてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックが併設と言う事もあり、重度の利用者が多い。バイタル異常や緊急時は院長先生の指示をうけられるので安心である。	利用者の重度化から通院困難な方が多く、母体のクリニック(法人代表が経営)をかかりつけ医にしている。月に2回の往診があり、点滴はホーム内で看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長自体がナースということもあり、終日利用者様の事を看ている。職員は何でも相談できて適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニックからからの紹介状や介護情報を提供することは勿論時々施設から見舞っている。家族様とも話し、相談員さんからも情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急についての同意書を取り、ドクターの指示を受けながら介護に当たっている。事業所としてできる事、ヘルパーが医療行為ができない事を理解していただいている。	クリニックが近く、いつでも医師の指示が受けられるが、ホームでの看取りは行っていない。重度化や終末期のあり方については、契約時に説明しており、利用者の状態に変化があった場合には、その都度、かかりつけ医と家族に相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のクリニックに報告し、現場にいる職員(ナース ヘルパー)が救命救急処置をする。ミーティングでは予想される危険についていつも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月には地域の防災訓練に利用者様と共に参加した。12月には消防署立会いのもと通報訓練、利用者様の安全特に夜間想定ですることになっている。	夜間想定 of 防災訓練(避難訓練)から、職員だけでは利用者を避難させることが困難であることが分かった。近所の職員が駆けつけるのには時間がかかるため、運営推進会議で地域にも訓練への参加を求めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様情報には守秘義務がある事はいつも申し合わせている。認知症の理解は現場で分かっているがプロ意識をもって介護に当たるよう言葉使いには注意するよう気をつけている。	「隣人愛」の理念の下、利用者の尊厳を守る支援が行われている。しかし、気の緩みもある。「恵みカフェ」の大勢の来客で混雑する中、トイレのドアを開けたままで排泄介助が行われていた。	馴れが怖い。「排泄」、「入浴」、「食事」の3大介助を始め、様々な支援のマニュアルを点検し、標準的な実施方法の徹底を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に夜間に不穏になり、「おかあちゃん」と叫ぶ方がおられ、外国籍の職員は「私が守るから大丈夫」と抱きしめてベッドにお連れしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の利用者様の体調を見て昼間ストレッチャーでリビングにお連れして皆さんと過ごしてもらっている。ソファで過ごせる方には長い時間いていただく。よくお身内の面会があり和んでおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性スタッフが多く入浴後など利用者様の髪をアップにしたりねじったりで写真に収めている。男性で髭の濃い方には入念に髭剃りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の外食やおやつツアーを計画するとメニューを皆さんで眺めて注文される。当日には忘れていたが選ぶのがたのしみなようで話が弾む。	誕生日に希望の食事を提供したり、月1回の外出・外食が楽しみのひとつになっている。ホームが管理する畑で採れたなす、カボチャ、さつまいも等が職員の手で美味しく調理され、利用者の食が進んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃瘻の方も何人かおられ、医療職の管理をうけている。経口摂取の方で摂食が難しい時は食の形態を工夫して勧め1日の総水分摂取量は最低でも600cclになるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝早出は髭剃りや口腔ケアに力を入れている。胃瘻の方には誤嚥されないよう口腔ケアに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりで自分で排泄ができない方もおられ、不快な思いをされないよう3日排便がない時はナースが摘便したり、クリニックターに相談している。	トイレでの排泄を基本としているが、高齢化や重度化の進行によっておむつ対応も増えてきている。排泄管理表を基に最適な支援方法を決め、定期的な声掛けやトイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リーダー中心に利用者様の排便管理をしている。水分が足りているかチェックをしたり時々皆さんでストレッチをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝ぶろの好きな方には夜勤と早出が協力して入浴介助する時間を作ったり、音楽を流したり、拒否のある方は散歩に誘ってお風呂へと誘導している。入浴後は拒否したことを忘れていく。	あくまで利用者の意向を尊重し、入浴の拒否があっても無理強いすることはない。職員は気長に構え、時間を置いて誘ったり、職員を替えて呼びかけたりして楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則21時消灯だが夜間不穏な方がおられるが外国籍の職員が「大丈夫 私が守るよ」と抱きしめると落ち着かれることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬は大まかな説明がされていて外国籍の職員は理解できている。実際現場でナースの施設長が服薬確認の重要性を教えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の面会に来られたかたがハーモニカ持参で寝たきりの方の居室に職員と行きお好きな曲をリクエストしてもらい聴きながら涙ぐむ方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寝たきりの方が数人おられ、体調をみて天気が良い春にはストレッチャーにお乗せして桜を見てもらった。数人おられるので当然ピストンになるが日差しを浴びられ写真に収めた。	高齢化、重度化が進む利用者の状態から、外出の機会は少なくなっている。気候、利用者の体調、職員の勤務状況等、条件がそろえば一人ずつでも外に出る努力をしている。家族アンケートの結果は良好で、昨年比からも改善がみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金とケータイは利用者様に遠慮していただいている。家族様からお金を預かり、医療費や薬代、床屋さん、その方に必要なものを購入させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙ボランティアさんが毎月来て下さり、夏は暑中見舞いを各家族様に出したり、秋には地域文化祭に出品している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は小ざっぱりしているのが良い。利用者様の家族や元利用者様の家族様が人形を下さったり花など持って訪ねて下さり、有難く飾らせていただいている。	ホームのリビングには、さりげなく花や絵画が飾られ、落ち着いた雰囲気である。昼間、リビングに残って「孤独」を楽しむ利用者もいるが、多くの利用者は併設されている小規模多機能事業所のリビングに遊びに出かけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目の不自由な方にはその方のソファ、体の自由がきかない方たちがいるソファや空間があり、おのずと場所が決まってくる。日光浴や音楽を流したりで過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の写真や孫様やひ孫様たちの写真が置かれている。かつて孫様が幼稚園で作ったゴミ箱にちぎり絵や折り紙がはってあるものが置いてあり大切にしておられる。	自宅から持ち込んだ物から帰宅願望に繋がれることを恐れ、刺激の少ないシンプルな居室にしている例があった。家族の協力を得て、個々の生活スタイルに合わせたプライベート空間になるよう居室作りを進めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、リビング、また手すりの位置など全盲の方がおられるので位置感覚を乱すようなものは置かないでなるべく広くしている。		